

「福井新元気宣言」に基づく4年間の県政
(平成19~22年度)

平成22年12月

福 井 県

はじめに

福井県では、県民生活の質の向上を目指し、「福井新元気宣言」を基に、県議会や市町との議論と協力のもと、様々な政策を実施してきました。

また、「政策合意等における4年間の目標数値」を設定し、その進捗を管理するとともに、その達成状況については、毎年度の知事と部局長による「政策合意」の結果や平成21年度に発表した「福井新元気宣言に関する中間評価」として公表してきました。

本年度は、「新元気宣言」の最終年度に当たるため、4年間の県政の全体像をできるだけ早い段階で公表することが望ましいと考え、最終的な実績が確定する前に達成見込みを公表することとしました。

本資料は、「新元気宣言」に掲げた4つの「元気」と10の政策ごとに、主な施策とその成果(見込み)を示したものです。

※ 全施策の実施状況や成果は、県のホームページ<<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/seiki/index.html>>でご覧になれます。また、<<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/seiki/pubcom/pubcom.html>>で県の政策に関する皆様のご提案、ご意見をお待ちしております。

「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

4つの元気	目標数	達成済	達成見込	達成困難	達成率
元気な社会	44	10	30	4	91%
元気な産業	36	2	27	7	81%
元気な県土	11	4	6	1	91%
元気な県政	15	5	10	0	100%
行財政構造改革	4	0	4	0	100%
計	110	21	77	12	89%

目 次

元気な社会

- 1 未来を託す教育・親しみ楽しむ県民文化 1
☆子どもの学力・体力日本一を実現しました。
- 2 女性活躍社会 3
☆全国トップレベルの出生率を実現しました。
- 3 イキイキ・長生き「健康長寿」 5
☆がん検診を受診する県民の大幅増加を実現しました。
- 4 みんなの手によるあたたか福祉 7
☆全国トップレベルの障害者雇用率を実現しました。
- 5 日本一の安全・安心(治安回復から治安向上へ) 9
☆全国トップレベルの検挙率を実現しました。

元気な産業

- 6 地域を支え世界に広がる福井の産業 11
☆観光客入込数1千万人を実現しました。
- 7 力強いプライドの農林水産業 13
☆全国トップレベルの一等米比率を実現しました。

元気な県土

- 8 高速交通時代のにぎわい交流まちづくり 15
☆北陸新幹線、高規格幹線道路の整備を進めました。
- 9 原子力の安全・安心と信頼の確保 17
☆県民の安全・安心と信頼を最優先に確保しました。

元気な県政

- 10 夢と誇りのふるさとづくり 19
☆福井の知名度向上を実現しました。

行財政構造改革

- ☆職員の削減と財政の健全化を実現しました。 21

凡 例

「新元気宣言」に基づく政策を実施する前の福井県の状況を表しています。

第一級の芸術文化を直接体験する子どもの数

☆ 46,772人/年
平成18年度

☆ 65,000人/年(見込み)
<目標数値 65,000人/年>

「新元気宣言」に基づく政策を実施した後の福井県の状況を表しています。
年度等の標記がない場合には平成22年度(末)の状況を表しています。
また、4年間の目標数値が設定されている項目は、その目標を<>に記載しています。

10の政策

1 未来を託す教育・親しみ楽しむ県民文化

少人数学級の推進や「元気ふくいっ子学力向上センター」を中心に先進の教育政策を展開し、子どもの学力・体力日本一を実現しました。

全国学力テスト

小学6年生 ☆ 全国2位
中学3年生 ☆ 全国1位
平成19年度

➤

★ 全国2位
★ 全国1位

※全国学力テスト=全国学力・学習状況調査

全国体カテスト

小学5年生 ☆ 全国2位
中学2年生 ☆ 全国2位
平成20年度

➤

★ 全国1位
★ 全国1位

※全国体カテスト=全国体力・運動能力、運動習慣等調査

理科や数学の応用力や実験力を競い合う「ふくい理数グランプリ」の開催や、小学校への理科支援員の配置を通して、全国・世界規模の科学コンテストへの出場者の大幅アップを実現するなど、子どもの理数への関心を高めました。

全国・世界規模の科学コンテストへの参加者数

☆ 13人／年
平成18年度

➤

★ 100人／年



《ふくい理数グランプリ(科学実験)》

福井県が独自に学級編制基準を引き下げて教員の配置を行い、全国トップレベルの少人数学級を実現しました。

小中学校の学級編制の状況

小学5年生 ☆ 40人学級
小学6年生 ☆ 37人学級
中学1年生 ☆ 32人学級
中学2、3年生 ☆ 37人学級
平成18年度

➤

★ 36人学級
★ 36人学級
★ 30人学級
★ 33人学級



《小学校における少人数学級の授業》

※国の学級編制基準では1学級=40人

小学生がプロのオーケストラ演奏を鑑賞する「ふれあい文化子どもスクール」の開催や学校等で美術館の絵画、彫刻を展示するなど、子どもが第一級の芸術・文化に触れる機会を増やしました。

第一級の芸術文化を直接体験する子どもの数

☆ 46,772人／年
平成18年度



☆ 65,000人／年(見込み)
<目標数値 65,000人／年>



《ふれあい文化子どもスクール》

優秀なスポーツ選手の育成や県民の生涯スポーツを応援する「スポーツふくい基金」を平成22年4月に創設するとともに、世界で活躍するスポーツ選手の増加を実現しました。

国際大会上位(1～3位)入賞者数

☆ 10人／年
平成18年度



☆ 25人／年
平成21年度



《国際大会で活躍する福井県選手
(2010世界ジュニアボート選手権)》

福井新元気宣言に掲げた主な施策

- ◆「ていねいな教育」と「きたえる教育」
 - 「元気福井っ子笑顔プラン」により少人数学級をさらに推進
 - ・このプランの充実と弾力的な実行により、一人ひとりの子どもに目と心を配る。小学校低学年を中心に少人数学級をさらに推進
- ◆いつでも身近に福井の文化
 - 第一級の文化を子どもたちに
 - ・福井の歴史、福井の偉人(杉田玄白、松平春嶽、橋本左内、由利公正など)、白川文字学などを学ぶ郷土文化の拠点「福井子ども歴史文化館」を旧県立図書館に整備
 - ・県立音楽堂などで身近に本物の芸術・文化に触れ、発表する機会を飛躍的に拡大
- ◆「みんながプレーヤー」と「世界を夢見るアスリート」の応援
 - スポーツふくい基金の創設
 - ・生涯にわたりスポーツを楽しめる生涯スポーツの応援と世界に通じる競技力の向上をめざす「スポーツふくい基金」を創設。指導者の育成と選手強化を応援



《こども歴史文化館(白川静・漢字ワールド)》
【H21.11.28オープン】

「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

目標数	達成済	達成見込	達成困難
14	5	8	1

達成率
93%

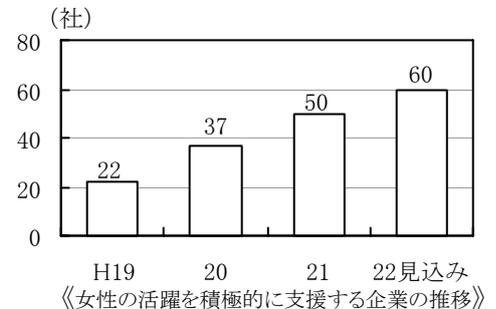
育児休暇制度の導入など女性の活躍を支援する企業や、女性に配慮した診療を行う病院を増やし、女性が社会で活躍しやすい環境を整えました。

女性の活躍を積極的に支援する企業数

☆ -
平成18年度



☆ **60社**(見込み)
<目標数値 60社>

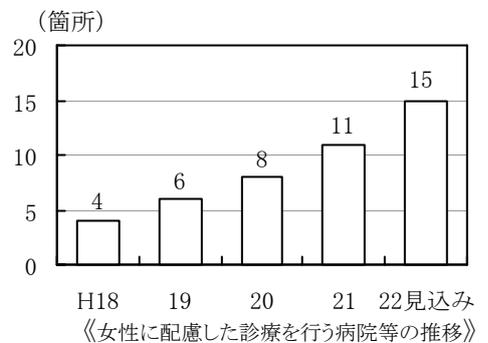


女性に配慮した診療を行う病院、診療所数

☆ 4箇所
平成18年度



☆ **15箇所**(見込み)
<目標数値 15箇所>



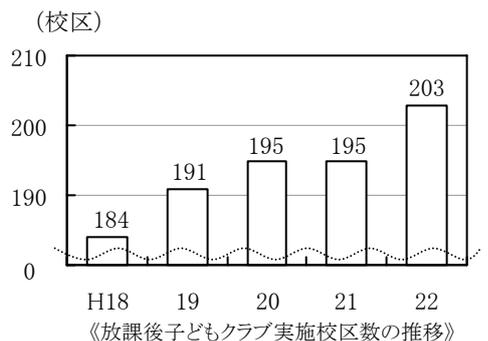
放課後に小学生を預かる「放課後子どもクラブ」の全小学校区設置や、病気の乳幼児を預かる「病児デイケア」の実施箇所の増設により、子育て世帯が安心して働くことのできる環境を整えました。

放課後子どもクラブ実施校区数

☆ 184校区
平成18年度



☆ **203校区(全校区)**
<目標数値 全校区>

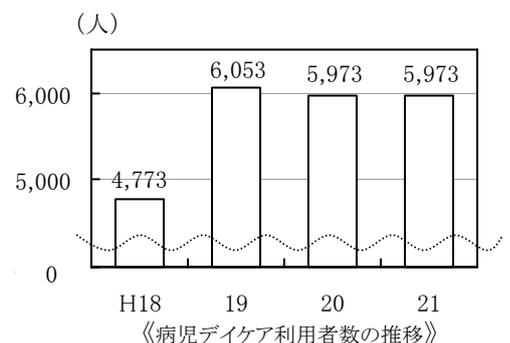


病児デイケア利用者数(延べ人数)

☆ 4,773人
平成18年度



☆ **5,973人**
平成21年度



子どもの一時預かりや子育て世帯の家事支援を行う「すみずみ子育てサポート」の実施拠点を増やし、子育て世帯の利便性の向上を図りました。

すみずみ子育てサポート利用者数

☆ 23,007人／年
平成18年度

➤

☆ **45,000人／年**(見込み)
<目標数値 45,000人／年>



《すみずみ子育てサポート事業での一時預かり》

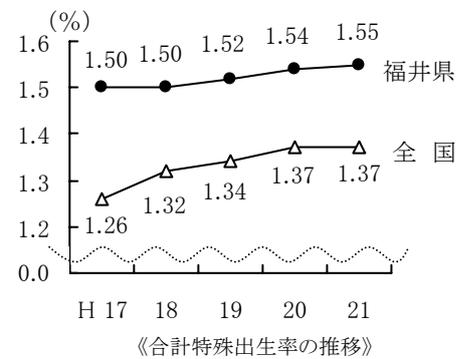
妊婦検診の無料化や子どもの医療費助成を小学3年生まで拡充するなど、先進の子育て政策を実施し、全国トップレベルの出生率を実現しました。

合計特殊出生率

☆ 1.50
平成18年

➤

☆ **1.55**
平成21年



福井新元気宣言に掲げた主な施策

- ◆女性の元気で女性活躍社会
 - 女性キャリアプログラム
 - ・生活学習館、県立大学等のプログラムにより、子育て後の仕事継続やビジネス起業などに再チャレンジする女性を応援
 - ・あらゆる分野で女性の進出を支援する「女性活躍支援センター」を創設
- ◆日本一の子育て応援システム
 - 毎日充実「放課後子どもクラブ」
 - ・全小学校区に「放課後子どもクラブ」を整備。縦割りの国の制度を統合し、弾力的な運用の福井方式で、どの子どもにも等しく充実した時間を提供
 - 手軽に利用できる子育て支援サービス
 - ・「まちなかキッズルーム」や「病児デイケア」がより身近に利用できるよう市・町との連携を強化して整備。「子育てマイスター」活動をさらに充実



《ふくい女性活躍支援センター》
【H19.8.1オープン(福井県生活学習館2階)】

「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

目標数	達成済	達成見込	達成困難	達成率
9	2	6	1	89%

高齢者の元気な生活を応援するため、運動機能の向上や栄養指導を行う介護予防事業を全県で実施し、元気生活率の向上を図りました。

高齢者の元気生活率

65～74歳	☆ 96.5%	➤➤	☆ 96.8% 平成21年度
	平成18年度		
75～79歳	☆ 88.5%		☆ 90.0% (見込み) <目標数値 約90.0%>
	平成18年度		

※元気生活率＝要介護認定を受けていない人の割合

《元気生活率(H21、65～74歳)》

順位	都道府県	元気生活率
1位	福井県	96.8%
2位	山梨県	96.7%
3位	茨城県	96.7%
全国平均		95.7%



《運動機能向上教室》

食育ボランティアによる食育の普及や県産材を活用した省エネ性能の高い住宅に対する助成を行い、快適な「医食住」環境の創出に努めました。

食育に関心がある人の割合

☆ 77.0%	➤➤	☆ 90.0% (見込み) <目標数値 90.0%>
平成18年度		



《食育ボランティアの活動》

住宅に満足を感じる人の割合

☆ 60.0%	➤➤	☆ 74.0%以上 (見込み) <目標数値 74.0%>
平成15年度		

《持ち家住宅の延べ床面積(H20)》

順位	都道府県	延べ床面積
1位	富山県	179.3㎡
2位	福井県	172.6㎡
3位	山形県	165.6㎡
全国平均		122.6㎡

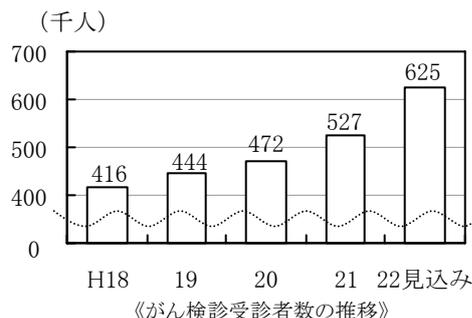
全国で初めて市町が実施するがん検診の受診券と料金を統一、県民が希望する医療機関と時間帯に個別検診が受けられる環境を整備し、受診者の大幅増加を実現しました。

がん検診受診者数

☆ 416千人／年
平成18年度



☆ **625千人／年**(見込み)
<目標数値 625千人／年>



臨床研修医の研修内容の充実や奨学金制度の創設、都市部において県内臨床研修病院の合同説明会の開催などを行い、県内で勤務する医師の確保に努めました。

新たな医師確保対策による医師充足数

☆ -
平成18年度



☆ **22人**(見込み)
<目標数値 20人>



《福井県立病院救命救急センターで働く医師》

福井新元気宣言に掲げた主な施策

- ◆「もっと健康長寿に」プログラム
 - 元気生活率アップ(いつまでも熟年)
 - ・75歳以上の高齢者の「元気生活率」(要介護認定を受けていない人の割合 18年:73%)を引き上げ
- ◆医・食・住の健康生活
 - 健康環境の向上
 - ・広く県民の関心である「医・食・住」の健康な生活環境の向上を、他の政策と総合化して強力に推進
 - ・予防から治療まで「医療環境」の充実、食育など「食環境」の改善、広く快適な住まいなど「住環境」の改善
- ◆がん予防・治療日本一
 - 「自分の体を自分で守る」がん検診作戦
 - ・「自分で自分の体をチェックする」意識を高め、がん検診率を飛躍的に向上
 - ・「働き盛り女性・男性検診大作戦」を実施(40歳代女性(乳がん)、50代男性(大腸がん)の検診を促進)
- ◆出産から介護まで安心医療
 - 医師・看護師の人材確保
 - ・研修・奨学金制度の充実による研修医の確保。院内保育等による女性医師・看護師の確保



《陽子線がん治療センターのイメージ》
【H23.3オープン予定】

「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

目標数	達成済	達成見込	達成困難
9	1	7	1

達成率
89%

10の政策

4 みんなの手によるあたたか福祉

障害者の職業能力開発や雇用相談等による就職支援を実施し、全国トップレベルの雇用率と就職率を実現しました。

障害者雇用率(民間企業)

☆ 1.91%
(全国5位)
平成18年



☆ **2.25%**
(全国2位)

《障害者の就職率(H21)》

順位	都道府県	就職率
1位	福井県	63.2%
2位	徳島県	60.6%
3位	島根県	52.7%
全国平均		36.0%

授産施設に対するマーケティング研修や中小企業診断士の派遣などを通して授産賃金を大幅にアップし、全国トップの賃金水準を実現しました。

授産賃金(月收入)

※県の授産賃金アップの対象78施設の平均

☆ 15,500円
平成18年度



☆ **27,000円**(見込み)
<目標数値 30,000円>

《国の工賃倍増5か年計画対象施設の平均工賃(H21)》

順位	都道府県	月額工賃
1位	福井県	16,621円
2位	佐賀県	16,358円
3位	徳島県	15,906円
全国平均		12,695円

※福井県内での対象は41施設

車いすを使用している方などの利便性を向上するため、県内の施設に「ハートフル専用パーキング」の設置を進めました。

ハートフル専用パーキングを設けている施設数

☆ -
平成18年度



☆ **800施設**(見込み)
<目標数値 800施設>



《ハートフル専用パーキング》

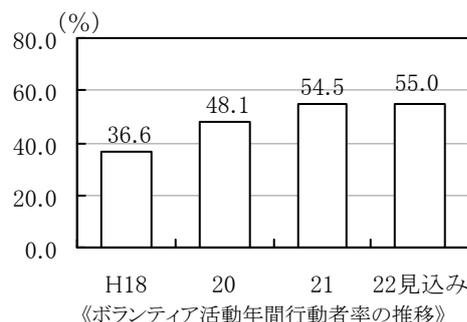
アオッサにボランティアの集いの場である「ボランティア・カフェ」を設置し、県民のボランティア参加を促進しました。

ボランティア活動の年間行動者率

☆ 36.6%
平成18年度



☆ **55.0%**(見込み)
<目標数値 55.0%>



介護施設の計画的な整備と在宅介護サービスの充実により、バランスのとれた介護サービスを提供し、待機者ゼロを継続しました。

介護施設の床数

☆ 8,835床
平成18年度



☆ 10,065床(見込み)
<目標数値 待機者ゼロを維持>

《特別養護老人ホーム整備率
(H20、定員数/要介護2以上認定者)》

順位	都道府県	整備率
1位	福井県	21.7%
2位	石川県	19.9%
3位	山形県	19.8%
全国平均		16.0%

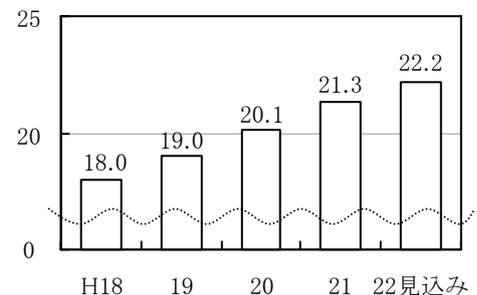
在宅介護サービス利用者数

☆ 18,000人/年
平成18年度



☆ 22,200人/年(見込み)
<目標数値 22,000人/年>

(千人)



《在宅介護サービス利用者の推移》

福井新元気宣言に掲げた主な施策

- ◆つながりと自立の応援プロジェクト
 - 家族・地域で支える障害者
 - ・障害者雇用率を向上。授産施設で働く障害者の所得を倍増
- ◆ヒューマンパワーのあたたか福祉
 - ヒューマンパワーが支える「共働福祉社会」の実現
 - ・「ボランティア・カフェ」をまちなかの立ち寄りやすい場所に設置。福祉ボランティアのやる気とニーズをマッチング。若者・熟年者を中心に活動機会を拡大
 - 「待機者ゼロ県」の継続
 - ・整備率が全国最高水準の介護施設をさらに充実し、在宅サービスとのバランスにより「待機者ゼロ県」を継続



《ボランティア・カフェ》
【H19.10.2オープン(アオッサ7階)】

「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

目標数	達成済	達成見込	達成困難	達成率
6	0	5	1	83%

5 日本一の安全・安心 (治安回復から治安向上へ)

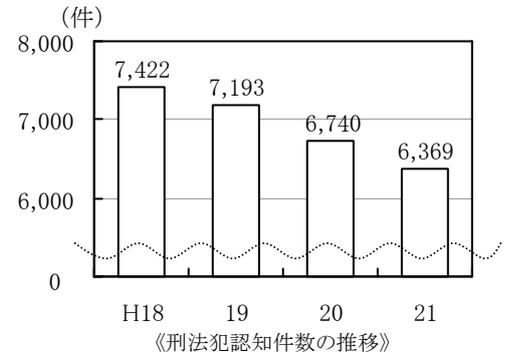
平成19年4月に「福井治安向上プラン」、平成21年4月に「安全・安心ふくい実現プラン」を策定、「見える・見せる警察活動」を推進し、全国トップレベルの検挙率と犯罪の減少を実現しました。

刑法犯の検挙率

☆ 47.8%
(全国6位)
平成18年



☆ **51.6%**
(全国4位)
平成21年



交通安全スロー・シグナル・シャイン(3S)運動を推進し、交通事故死者数の減少を実現しました。

交通事故死者数

☆ 64人/年
平成18年



☆ **38人/年**(12月16日現在)
<目標数値 60人/年以下>



《スロードライブを進めるための速度状況調査》

子どもを犯罪から守るため、地域や企業との共働により子どもの見守り活動を強化しました。

小学校の見守り活動参加者数

☆ 約44,900人
平成18年度



☆ **約48,000人**(9月30日現在)



《子どもの見守り活動》

災害の発生に備えて、民間企業との防災協定の締結を進めました。

民間事業者等との防災協定数

☆ 23社
平成18年度



☆ **51社**
<目標数値 51社>



《民間事業者との防災協定締結》

県内の危険箇所の把握に努め、ハザードマップの全市町作成を実現しました。

洪水、土砂災害ハザードマップの作成市町

☆ 4市町
平成18年度

➤

☆ **17市町** (全市町)
< 目標数値 全市町 >



《ハザードマップを活用した防災訓練》

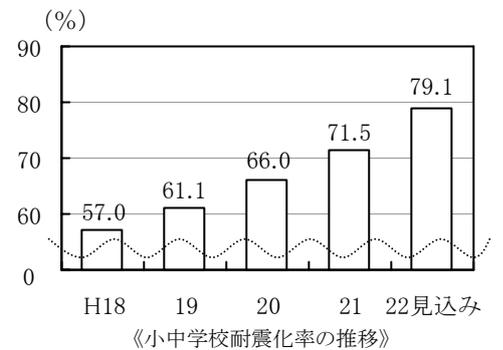
小中学校の耐震化を優先的に進め、子どもの安全・安心を確保しました。

公立小中学校施設の耐震化率

☆ 57.0%
平成18年度

➤

☆ **79.1%** (見込み)



福井新元気宣言に掲げた主な施策

- ◆「福井治安向上プラン」の実行
 - 凶悪化する犯罪の抑止と検挙率のアップ
 - ・交通体系の変化に伴い懸念される広域・凶悪犯罪を総力を挙げて抑止。「目に見える警察官」活動を徹底
 - スロードライブによる死亡事故撲滅
 - ・死亡事故の撲滅に向け「3S(スロー、シグナル、シャイン)運動」。特に、制限速度を守る「スロードライブ」を推進。飲酒運転死傷事故ゼロ
 - みんなが参加の防犯隊・地域見守り活動
 - ・見守り活動の組織体制を強化。「子ども安心3万人作戦」をさらに活発化。公務員の参加促進
- ◆災害・危機への「最初動」対策
 - 自然災害から暮らしを守る防災体制の強化
 - ・福井豪雨災害・豪雪の教訓を活かし、民間との防災協定、要援護者対策を徹底
 - ・洪水ハザードマップを市・町と連携して平成21年度までに全主要河川で作成
 - 小中学校耐震の優先徹底
 - ・教育と避難の場である小中学校の耐震化を最優先で促進

「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

目標数	達成済	達成見込	達成困難	達成率
6	2	4	0	100%

10の政策

6 地域を支え世界に広がる福井の産業

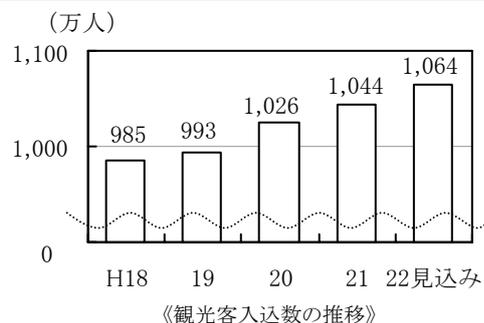
「新ビジットふくい推進計画」を策定、教育旅行など福井の特性を活かした観光政策を展開し、観光客入込数1千万人を実現しました。

観光客入込数

☆ 985万人／年
平成18年度



☆ **1,064万人／年**(見込み)
<目標数値 1,060万人／年>



コンベンションの開催回数

☆ 173回／年
平成18年度



☆ **210回／年**(見込み)
<目標数値 210回／年>



《中国からの教育旅行》

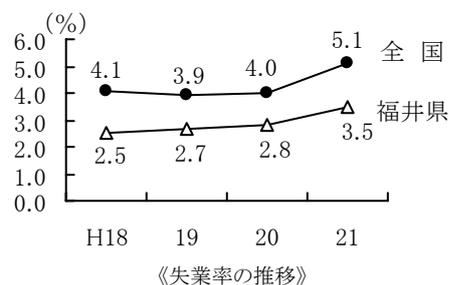
若者の就職を応援する「ふくいジョブ・カフェ」の設置や雇用を維持する企業に県単独で助成を行い、全国トップレベルの雇用水準を実現しました。

完全失業率の低さ

☆ 全国1位
(2.5%)
平成18年



☆ **全国1位**
(3.5%)
平成21年

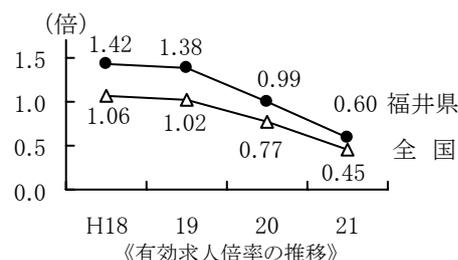


有効求人倍率の高さ

☆ 全国3位
(1.41倍)
平成18年10月



☆ **全国1位**
(0.90倍)
平成22年10月



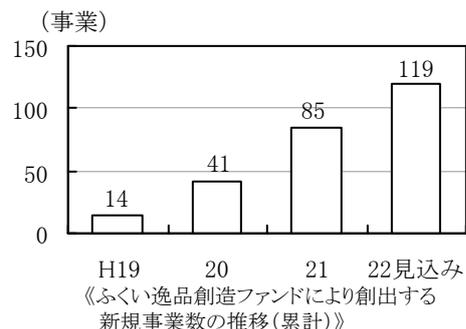
中小企業の商品開発を応援する「ふくいの逸品創造ファンド」を創設し、100以上の新事業を創出しました。

「ふくいの逸品創造ファンド」等により創出する新規事業数

☆ -
平成18年度



☆ **119事業**(見込み)
<目標数値 110事業>



「ふくい銀座ショップ」を開設するなど、ふくい南青山291の活動を充実し、首都圏への販路拡大を進めました。

ふくい南青山291の売上額

☆ 5,041万円
平成18年度



☆ 1億1,622万円
平成21年度



《ふくい南青山291》

国際原子力人材育成センターの設置など、原子力・エネルギー分野の人材育成機能を強化し、エネルギー研究開発拠点化計画のステージアップを図りました。

エネルギー研究開発拠点化計画

【平成19年度以降の主な成果】

- アジアの安全技術・人材育成に貢献するため、国際原子力人材育成センターを23年度に設置します。
- 関西・中京圏の大学と連携した国際的な教育・研究の拠点形成に向け、福井大学国際原子力工学研究所敦賀キャンパスの建設を進めています。
- 原子力関連技術を活用して、県内企業による共同研究や事業化を支援し、新たな製品化を促進しました。



《福井大学国際原子力工学研究所(完成予想図)》
【H23.12敦賀市に完成予定】

福井新元気宣言に掲げた主な施策

- ◆ブランド複合型の観光産業
 - 観光客入込数1千万人の実現
 - ・「住んでよし、訪ねて楽し」の幅広い観光振興に向け、民・官の観光の総合推進体制を整備。観光、歴史・文化をはじめ様々な福井のブランド資源を組み合わせた誘客を推進。観光客入込数1千万人を実現
- ◆雇用の質の向上
 - 雇用環境の質的改善
 - ・非正規社員の雇用環境を改善。正規化・常勤化を促進し、やりがいと収入をアップ
- ◆地域の雇用とコミュニティを支える地場産業(地域貢献産業)
 - 地場産業の構造改革
 - ・「地域産業活性化ファンド」を創設、「実は福井」のものづくり技術・農林水産品・観光資源など福井の「強み」を組み合わせた100の新事業を創出
- ◆「エネルギー研究開発拠点化計画」のステージ・アップ
 - エネルギー研究開発拠点化による“若狭湾新時代”をスタート
 - ・地域産業への貢献、アジアの安全技術・人材育成への貢献、国際的な研究機能の集積などの観点から、「エネルギー研究開発拠点化計画」をステージ・アップ

「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

目標数	達成済	達成見込	達成困難	達成率
22	2	13	7	68%

10の政策

7 力強いプライドの農林水産業

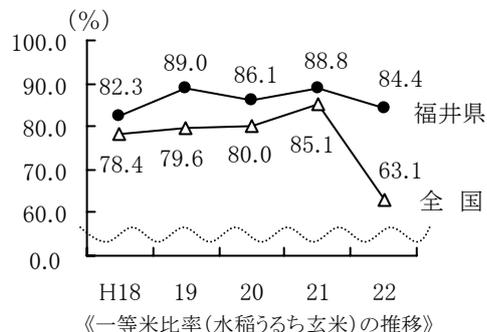
福井米の大粒化やさつき半ばの適期田植えを推進し、全国トップレベルの一等米比率を実現しました。

一等米比率(水稻うるち玄米)

☆ 全国14位
(82.3%)
平成18年産米



☆ **全国5位** (10月末)
(84.4%)



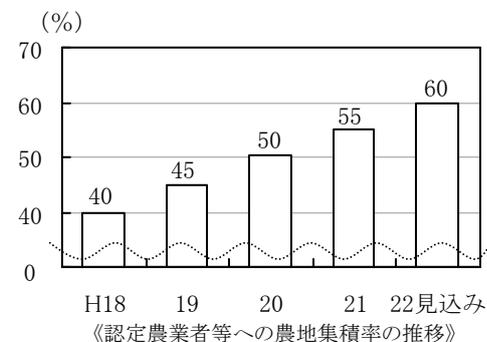
認定農業者への農地幹旋や法人化等による農地の集積を進め、農業の生産性向上を図りました。

認定農業者等への農地集積率

☆ 40%
平成18年度



☆ **60%** (見込み)
<目標数値 60%>



アグリサポーターやボランティアが高齢者や働き手不足の農家を支援する「地域農業サポート事業」を導入し、地域農業を支援しました。

地域農業サポート事業実施集落数

☆ -
平成18年度



☆ **676集落** (見込み)
<目標数値 660集落>



《高校生ボランティアによる地域農業サポート》

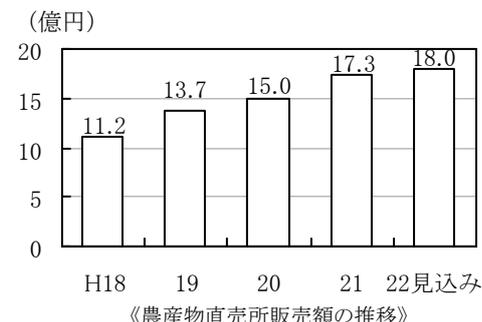
少量の農産物を共同出荷する「小口集荷システム」づくりを推進し、農産物直売所の販売額の大幅アップを実現しました。

農産物直売所販売額(大規模拠点直売所 8箇所)

☆ 11.2億円/年
平成18年度



☆ **18億円/年** (見込み)
<目標数値 18億円/年>



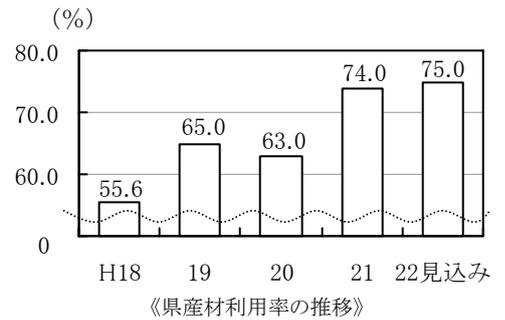
県産材を使用したリフォームの促進やふくいブランド材の供給体制を整備し、県産材の利用率向上を実現しました。

県産材利用率

☆ 55.6%
平成18年度

➤➤

☆ **75.0%**(見込み)
<目標数値 75.0%>



地魚を用いた民宿料理や漁業体験と組み合わせた宿泊プランを企画・提供し、漁家民宿の宿泊客数の増加を実現しました。

漁家民宿への宿泊客数

☆ 33万人/年
平成18年度

➤➤

☆ **37万人/年**(見込み)
<目標数値 37万人/年>



《漁家民宿(大敷網体験)》

福井新元氣宣言に掲げた主な施策

- ◆ソフト重視の企業的農業の推進
 - 市場で勝てる高品質の米づくり
 - ・認定農業者、集落営農組織による水田耕地面積を60%以上に拡大
- ◆若者から高齢者まで「みんなが後継者」の地域農業
 - 山間地・都市近郊農地でのアグリサポート
 - ・農業リーダーである指導農業者、青年農業者が「アグリサポーター」として高齢者や働き手不足を支援
- ◆フードビジネスの推進
 - 「地産地消」の農産物直売
 - ・熟年農業者や女性グループによる農産物直売所の拡充とネットワーク化(共同集荷・出荷システムの導入)
- ◆元気な森づくり
 - 植樹祭で「森に元気」を
 - ・森林資源の循環(伐採→植林→保育のサイクル)を促進する県産材の利活用率を向上(17年度:56%)
- ◆がんばる海業
 - 「若狭・越前の海」をブランド化、漁業・観光のトータル化
 - ・美しい海、おいしい魚、なつかしい祭・風景、ぬくもりのある民宿などを海業として一体化し、全国発信・キャンペーンを展開



《第60回全国植樹祭2009ふくい》
【H21.6.7開催(一乗谷朝倉氏遺跡)】

「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

目標数	達成済	達成見込	達成困難	達成率
14	0	14	0	100%

北陸新幹線、舞鶴若狭自動車道、中部縦貫自動車道の整備を進めました。

北陸新幹線

【平成19年度以降の主な成果】

- 平成21年2月に福井駅部が完成しました。
- 敦賀までを含む未着工区間について、平成21年12月に、早期に着工すべき区間を決定するという政府の方針が示され、検討されています。

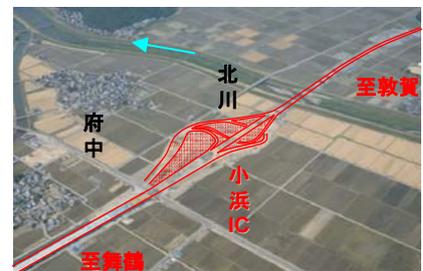


《北陸新幹線福井駅部高架橋》

舞鶴若狭自動車道

【平成19年度以降の主な成果】

- 小浜・敦賀間の用地買収をほぼ完了しました。
- 小浜西・小浜間について、平成23年夏の開通が示され工事が進められています。
- 小浜・敦賀間について、平成26年度の開通に向けて工事が進められています。



《舞鶴若狭自動車道 小浜IC付近
(提供:NEXCO中日本 H22.6撮影)》

中部縦貫自動車道

【平成19年度以降の主な成果】

- 平成21年3月に上志比・勝山間(7.9km)が開通しました。
- 平成21年3月に大野東・和泉間(14km)が新規事業採択されました。
- 勝山・大野間について、平成24年度の開通が示され工事が進められています。



《中部縦貫自動車道 永平寺大野道路
開通記念イベント(H21.3.22)
中部縦貫道ハイウェイウォーク》

敦賀港に多目的国際ターミナルを整備、県内外へのポートセールスを展開し、外貿定期コンテナ数の大幅アップを実現しました。

敦賀港外貿定期コンテナ数

☆ 8,104TEU/年
平成18年



☆ 15,000TEU/年(見込み)
<目標数値 15,000TEU/年>



《鞠山南地区多目的国際ターミナルに
整備されたガントリークレーン》

えちぜん鉄道、福井鉄道の新駅設置を実現し、電車の利便性向上を図りました。

【平成19年度以降の主な成果】

- 平成19年9月、えちぜん鉄道三国芦原線に「日華化学前」「八ツ島」の2駅が開業しました。
- 平成22年3月、福井鉄道福武線に「スポーツ公園」駅が開業しました。23年3月には、さらに福井市内に2駅が開業予定です。



《福井鉄道福武線 スポーツ公園駅》

雨天時にバスを増便する「レイニーバス」を運行するなど、通勤・通学時間帯のバスの利便性を向上しました。

路線バスの増便により利便性向上を実現した高校等の数

☆ -
平成18年度



☆ 14校



《小浜水産高校直行レイニーバス》

福井新元気宣言に掲げた主な施策

- ◆ 高速交通ネットワークの整備促進
 - 北陸新幹線の全線建設
 - ・ 県民の総力を結集して関係機関に対し強力な運動を継続して展開し、県内延伸に向けた整備スキームの見直しを実現
 - 舞鶴若狭自動車道の整備促進
 - ・ 小浜西・小浜間は平成23年度まで、小浜・敦賀間は平成26年度までの開通の方針に基づき、少しでも早い完成をめざす
 - 中部縦貫自動車道の整備促進
 - ・ 上志比・勝山間は平成20年度の供用開始、福井・大野間は10年以内の開通に向けて促進
 - ・ 大野・油坂峠間は整備計画への組入れを実現し、着工時期に目処
- ◆ 敦賀港、福井港の利用促進
 - 敦賀港
 - ・ 多目的国際ターミナルの平成19年度完成を受け、港湾施設整備とポートセールスの総合的な推進体制をつくる。中国・韓国への定期航路を拡大
- ◆ モビリティ・マネジメント(交通手段の最適利用)の推進
 - 電車・バスの生活利便性の向上
 - ・ 路線バスの一律運行から、多様で効率的なバス運行システムへの転換を促進

「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

目標数	達成済	達成見込	達成困難	達成率
11	4	6	1	91%

原子力の安全対策に万全を期し、県民の安全・安心と信頼を最優先に確保しました。

「もんじゅ」の安全確保

【平成19年度以降の主な成果】

- 国と事業者の安全対策を厳正に確認しました。
- 「もんじゅ関連協議会」で、国の責任ある対応や地域振興の充実などを強く要請しました。
- 庁内に「もんじゅ総合対策会議」を設置し、国や事業者の対応を確認しました。



《もんじゅ関連協議会》

高経年化対策の充実

【平成19年度以降の主な成果】

- 本県の要請を受け、高経年化技術評価等が国への報告事項から認可事項になりました。
- 敦賀1号機および美浜1号機の運転延長に際し、住民の安全・安心をきめ細かく確保するため、「中間安全確認」の実施を国に提案し、了解されました。



《日本原電敦賀1号機》

原子力発電所の安全・安定運転の実現

【平成19年度以降の主な成果】

- プルサーマル計画について、節目となる工程の各段階で、県として独自に安全性を確認しました。
- 耐震安全性について、地質・地震の専門家を招いて、県原子力安全専門委員会で厳正に確認しました。



《MOX燃料輸送容器の安全性確認》

電源三法交付金、補助金のソフト事業への活用

【ソフト事業への活用事例】

- 子育て支援
 - ・一時保育サービスの充実
 - ・子育てマイスターの活動支援
- 高齢者対策
 - ・高齢者グループホームの安全確保
- 雇用確保対策
 - ・ふくいジョブカフェの運営
- エネルギー研究開発拠点化計画の推進
 - ・原子力関連技術を活用した新製品の開発支援



《ふくいジョブ・カフェ(福井商工会議所ビル1階)》

福井新元気宣言に掲げた主な施策

- ◆安全と信頼の確保に全力、15基体制を堅持
 - 原子力発電所の安全にかかわる高経年化対策の推進
 - ・国や電力事業者において県民の目に見えるかたちで対策を実施するよう強く要請。県民の立場に立った意見を積極的に国に提案
 - 敦賀3、4号機増設計画への適切な対応
 - ・事業者に対し、安全確保を第一として増設計画に着実に取り組むよう要請
 - 「もんじゅ」への慎重な対処
 - ・高速増殖原型炉「もんじゅ」については、事業者の取組みや国の安全審査等の結果を県原子力安全専門委員会の審議等により厳正に監視・確認
 - ・運転再開については、国における十分な審査等の結果を踏まえ、県民の立場に立って判断
 - プルサーマル計画への対応
 - ・プルサーマル計画については、関西電力が美浜発電所3号機の事故で失われた県民の信頼と安心の回復を図ることが前提。取組状況や国の指導・監督状況を見極めながら対応
 - 原発特措法に基づく各種事業の着実な推進
 - ・「原子力発電施設等立地地域の振興に関する特別措置法」に基づく振興計画を着実に推進。観光や文化の振興、鉄道、通信施設等についても振興計画の対象事業に追加するよう国に強く要請
 - 電源三法交付金・補助金の有効活用
 - ・電源三法交付金等については、ハード整備だけでなく、子育て支援や地域産業の振興などソフト事業に幅広く活用

10の政策

10 夢と誇りのふるさとづくり

観光営業部を設置して全庁体制の営業活動を展開、世界に向けて福井の情報を発信し、知名度向上を実現しました。

県の情報発信を広告費に換算した場合の効果

☆ 10億円／年
平成18年度



☆ 14億円／年
平成21年度

《大河ドラマ「お江」を活用したPR》



お茶々ちゃん お江ちゃん お初ちゃん

【情報発信のための主な活動と成果】

- ・福井県が提唱した「ふるさと納税」が制度化(20年4月)
- ・全国初の「ちりとてちん杯女性落語大会」を開催(20年9月)
- ・WRO福井エキシビジョンを開催(20年11月)
- ・福井県が小学館DIMEトレンド大賞特別賞を受賞(20年11月)
- ・西川知事がベストファーザーイエローリボン賞を受賞(21年6月)
- ・「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」を設立(22年1月)
- ・APECエネルギー大臣会合を開催(22年6月)
- ・福井県の地方自治法施行60周年記念貨幣に恐竜の図柄が採用(22年発行)

ふるさと納税の実績(平成21年度)
件数 509件 全国6位
金額 31,803,450円 全国7位



《第1回ちりとてちん杯女性落語大会の受賞者と審査員》



《ふるさと知事ネットワークでの記者会見》



《APECエネルギー大臣会合》

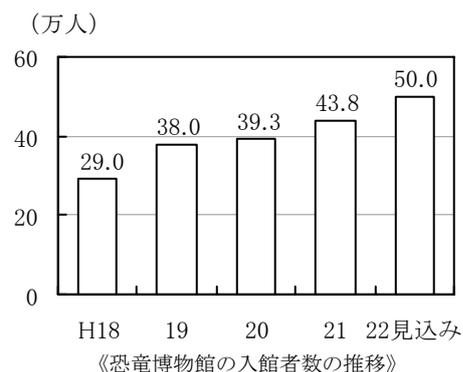
首都圏での出前恐竜展の開催等によるPR活動の強化や展示内容の充実により、恐竜博物館の入館者数の増加を実現しました。

恐竜博物館の入館者数

☆ 29万人／年
平成18年度



☆ 50万人／年(見込み)
<目標数値 47万人／年>



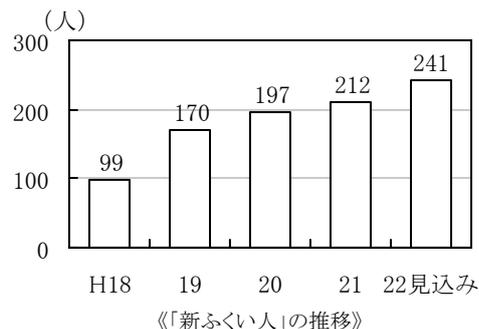
東京、大阪、名古屋、金沢に「ふるさと帰住センター」を設置、「ふくい空き家情報バンク」による家屋の斡旋を行い、県外からの移住者の増加を実現しました。

福井で新たに生活を営む「新ふくい人」

☆ 99人
平成18年度



☆ **820人**(見込み)
<目標数値 800人>



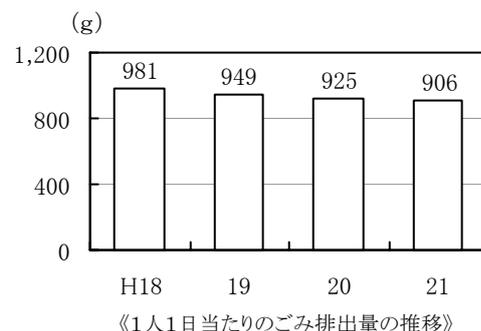
「おいしいふくい食べきり運動」の推進や修理工房、古本市の開催などリサイクル文化の定着を図り、ごみ排出量の削減を実現しました。

1人1日当たりのごみ排出量

☆ 981g
平成18年度



☆ **906g**(速報値)
平成21年度
<目標数値 940g以下>



福井新元気宣言に掲げた主な施策

- ◆「理想県」福井を全国に
 - 世界的な視点からの情報発信
 - ・地域の資源を磨き、ビジネス化する地域ブランド活動を全国ブランド化
 - ・発信力のある企業とのコラボレーションを推進
 - ・グローバルな手法によるローカルな情報の発信
 - 恐竜渓谷(ダイノソーパーレー)
 - ・世界第一線の研究者との連携を強化。日本各地、中国、タイなど海外の恐竜化石発掘を支援し、恐竜博物館を世界の研究拠点に
 - ・恐竜博物館から恐竜発掘現場までを中心とした九頭竜川流域一体を「恐竜渓谷」として育て、観光ブランド化
- ◆「ふくい帰住」政策
 - 「新ふくい人」、「リターンふくい」の推進
 - ・「住み」、「働き」、「交わり」、「楽しみ」の福井型の豊かなライフスタイルを全国に提案・アピール。「新ふくい人」を全国から招致。受入をする人たちの体制や研修の支援
- ◆「一人ひとりがエコライフ」
 - ごみ分別・リサイクルの推進
 - ・家庭・地域、事業所の生ごみ・紙プラスチック類の減量化を進め、「1人1日当たり100g(約1割)のごみ減量化、ごみ排出量940g」を実現



《県内に飛来したコウノトリ》
【H22.4.10撮影(越前市春日野町)】

「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

目標数	達成済	達成見込	達成困難
15	5	10	0

達成率
100%

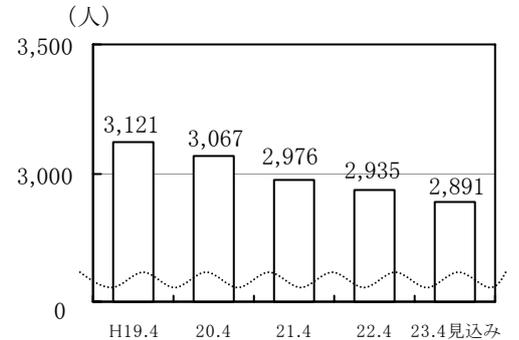
アウトソーシングや業務の効率化を徹底し、県の職員数削減を実現しました。

一般行政部門の職員数

☆ 3,121人
平成19年4月



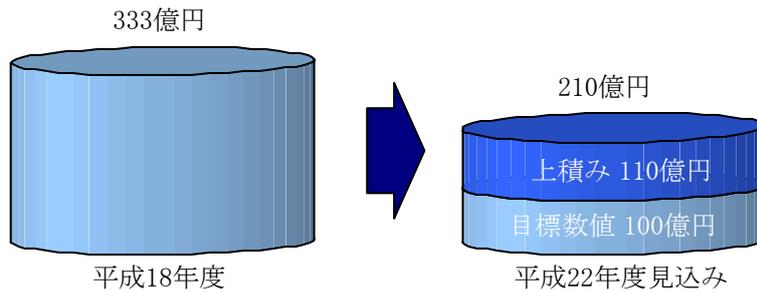
☆ **2,891人**(見込み)
平成23年4月
<目標数値 2,891人>



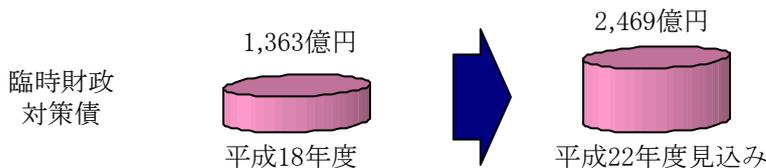
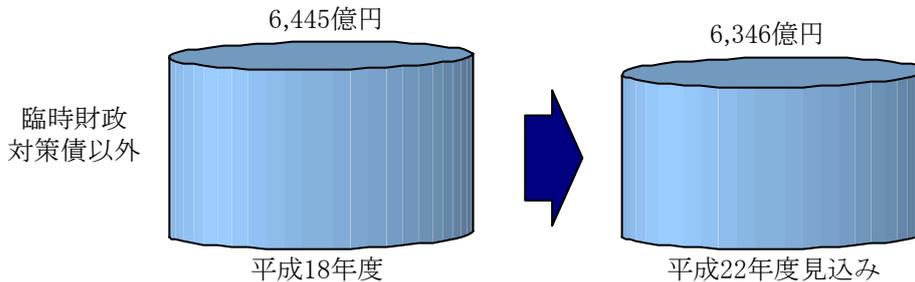
《一般行政部門職員数の推移》

事務事業見直しの徹底、未利用の県有財産の売却、「福井県地方税滞納整理機構」の設置による県税徴収の強化を図るなど、財政の健全化に努めました。

財政調整基金の残高を目標値以上に確保



臨時財政対策債を除く県債残高を削減



臨時財政対策債は、国が交付する地方交付税の総額が不足する場合に発行する地方債で、後年度に全額が地方交付税として交付されます。

入札制度改革を実行し、入札事務の適正化を実現しました。

公共工事入札制度の主な改正内容

- 一般競争入札の対象金額を7,000万円以上から250万円超に拡大
- 金額だけでなく技術力も評価する総合評価落札方式を導入
 - ・工事:5,000万円以上に本格導入、3,000万円以上に一部導入
 - ・委託:設計業務委託の一部に試行導入
 - ・県内業者下請け、県産品活用を評価
- 測量設計等業務に、最低制限価格制度を導入

福井新元氣宣言に掲げた主な施策

- ◆ 質の高い政策をめざすスリムな県庁
 - 行財政構造改革を継続(「オプティマム(最適)県庁」の確立)
 - ・歳入確保や歳出の適正化
 - ・人件費の抑制、出先機関の統廃合
 - ・外郭団体(土木3公社)の整理合理化、電気事業の民間移譲、県有財産の売却
 - ・質の高い政策を実行する、さらにスリムで効率的な組織・機構に改編
- ◆ 公共事業、入札制度の改革
 - 入札改革
 - ・電子入札や一般競争入札を拡大。入札事務の適正化。再就職の透明性の確保
 - ・公共事業の競争によるコスト縮減で品質・事業量を確保しながら効率化を促進

「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

目標数	達成済	達成見込	達成困難	達成率
4	0	4	0	100%